

# しんあい

発行日：平成27年10月23日

- 特別養護老人ホーム裕生園
  - ケアハウス シヤトル
  - グループホーム たちばな
  - きんかん 小規模多機能ホーム
  - 養護老人ホーム長寿園
  - 高岡デイサービスセンター
- 〒880-2221  
宮崎県宮崎市高岡町内山 2407-3  
TEL.0985-82-0196(代)  
メールアドレス  
sin-ai-kai@sin-ai-kai.jp

発行：社会福祉法人 信愛会 ホームページ <http://www.sin-ai-kai.jp>

第  
28号



毎年恒例の裕生園・シヤトル・たちばな合同大運動会での一コマ

ごあいさつ



社会福祉法人信愛会  
副理事長  
辰元 圭子

夏祭りも終わり、もう十月になりました。十月は古来「神無月」。秋ですね。そろそろ、ここ宮崎でも木の葉が色付き始めます。

東北の復興がまだまだだと言うのに、自然災害はこれでもか、これでもかと言う位に押し寄せ、火山の噴火に始まり、台風18号が茨城県常総市を襲い、暴風、大雨のために、鬼怒川の堤防の決壊が起こり、災害の様子や人命救助のための自衛隊・消防・警察等々の活躍が生々しくテレビに映し出され、その様子に釘づけになりました。

また、明るいニュースもあり、ラグビー日本代表の南アフリカとの対戦に、ラグビーを初めてテレビで見た人も多かったと思います。二〇二〇年のオリンピックに向けてこれから日本中のスポーツ選手の育成や活躍が期待されることでしょう。

介護・医療の現場も報酬の削減で倒産の企業も増えておりますが、人手不足のために教育を受けた職員が集まらず、お年寄りへの虐待等が起こり、労務倒産や介護事業からの撤退が多くなりました。我が事業所も一人一人丁寧に先輩が指導して行かなければ職員は育たないと思いますので、利用者に添った介護ができるように努力して行きます。

人生の終末を安らかに安心して生活していただけるように、ご家族のご協力と共に職員も頑張って行きます。

## 高岡老人福祉館「百寿荘」での地域交流



宮崎市高岡町小山田にある高岡老人福祉館「百寿荘」



春に行われた合同桜祭り。  
歌謡浪曲の熱演に皆さん熱心に  
耳を傾けていました



9月に行われた百寿荘利用者と  
地元老人クラブとの合同敬老会

社会福祉法人信愛会は平成26年度から高岡デイサービスセンター及び高岡老人福祉館「百寿荘」の指定管理を宮崎市より受託しています。百寿荘は無料の入浴施設で、宮崎市内に住む六十歳以上の高齢者の方が利用できます。

信愛会は地域交流の一環として、百寿荘利用者と地元の老人クラブの皆さんをこの百寿荘にお招きして、9月に敬老会、4月に桜祭りを開催しました。

来場された皆さんは大変お元気で、そのパワーに主催者の私たちが元気をもらったような感じでした。

普段の百寿荘では、入浴を目的に来られる方がほとんどですが、自然にお友達の輪ができ、カラオケクラブのようなものが出来たり、近況を報告し合ったり、情報交換の場になっています。お互いの安否確認にもなり、引きこもり防止にもつながっているようです。

百寿荘は築四十年と古いですが、一人暮らしの高齢者がますます増えている超高齢社会を迎えて、老人福祉館としての意義はむしろ高まっています。

## サ高住「みやづる」の地鎮祭及び起工式が行われました

平成27年8月18日、サ高住（サービス付き高齢者向け住宅）「みやづる」の地鎮祭及び起工式が宮崎市高岡町宮水流の、もと養護老人ホーム長寿園があった敷地で行われました。

サ高住とは、高齢者住まい法に基づく住宅で、高齢者が住みやすく、また借りやすい賃貸住宅です。比較的自立されている高齢者が入居対象で、利用料も低く設定されています。木造平屋建て、36戸からなる建物で、平成28年4月1日オープンとの予定です。

長年この地にあつて地域交流を行って来た養護老人ホーム長寿園が浮田地区に移転したため、この宮水流地区に福祉拠点が待望されました。サ高住「みやづる」がそうした地域福祉の一拠点となるよう、社会福祉法人信愛会が緊密に連携を取って行きます。



宮崎市高岡町宮水流の、もと長寿園があった敷地。  
ここにサ高住「みやづる」がオープン予定



おこそかに地鎮祭及び起工式が行われました



# 特別養護老人ホーム 裕生園



特別養護老人ホーム裕生園  
施設長 中岩 哲也

平成27年4月1日付で特別養護老人ホーム裕生園施設長に就任いたしました。ケアハウスシャトル施設長在職中は数々のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

もとより微力ではございますが、社会福祉法人愛会の屋台骨である裕生園の責任者として全力を尽くして職責を果たしていく覚悟でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

裕生園は昭和52年に開設されましたので、今年で38年が経ちました。私に求められる責務は、裕生園の38年という永い歴史と伝統を守りつつ、社会福祉法人にとって厳しい状況の中、チャレンジ精神を持って施設運営に取り組んで行くことにあると思っております。

今年4月、介護保険制度改正により特別養護老人ホームへの入所対象が要介護3以上と変更になりました。重度者の特養待機解消が目的ですが、実際には要介護1や2の方でも特養入所を望まれるケースは多いと思います。幸いなことに辰元グループには、自立から要介護5までの方を受け入れる様々な施設が揃っていますので、軽度の方の受け皿も十分確保できると思います。お一人おひとりのニーズにあった施設、サービスを提供できるのが辰元グループの強みだと思いますので、お気軽にご相談ください。

これからも、利用者様本位のサービスをすべての職種全員で協力して提供し、ご利用者様、ご家族様が安心して楽しく生活することが出来る特養を目指して頑張りたいと思います。今後もどうぞよろしくお願い致します。



桜の花見バーベキュー



お茶会



運動会



高岡小学校児童の訪問

## 明るく楽しい 園生活

特養裕生園のスナップ写真より



夏祭り



保育園児の訪問



クリスマス



餅つき大会



# ケアハウス シヤトル

## ご挨拶



ケアハウスシヤトル

施設長 川越 淳

平成27年4月1日付で、ケアハウスシヤトル施設長及びグループホームたちばな代表を拝命いたしました。裕生園に20年近く勤務し、その間多くの方々大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

ケアハウスシヤトルは、比較的自立度の高い方々が利用する全室個室の入居施設です。大きく二つのタイプに分かれていて、①要介護度の有無に関係なく入居できる一般型、②要支援・要介護度のある方を対象とした特定施設入居者生活介護という型です。

①のタイプは、自立の方ももちろん、要介護の方も利用できます。介護度のある方は、介護保険サービスが使えますので、ヘルパーさんに訪問してもらったり、外部のデイサービス、デイケアに通うこともできます。

②のタイプは、ケアハウスシヤトルの施設職員がその方の要介護度に応じて、生活一般の支援・介護を行うタイプで、そのため一般型よりも職員の配置基準が手厚く、ほぼ全てのサービスを施設内でまかなうタイプです。

ケアハウスは社会福祉施設の一つで、ご利用者の収入に応じて利用料が決まる仕組みになっています。従って、収入の少ない方も比較的低額の料金でご入居できます。また、定期的に施設の運営状況を行政に報告し、行政からの実地指導監査も行われます。そういう意味では、経理上も、利用者へのサービスという点からも、公正で透明な運営を心掛けています。

私達ケアハウスの職員の役割は、ご利用者の自由意思を尊重し、その自由さから生じるリスクにも留意して、できる限り長く自立の生活が保たれるように側面から支援をして行くこと。そしてご利用者の状態の変化を見極め、必要な時期が来れば、その方の状態に適したサービスにつないで行くこと、だと思います。

私達辰元グループにはあらゆる種類の高齢者サービスがあります。今後お互いに緊密な連携を取りながら、ご利用者一人一人のご要望とニーズに沿ったサービスを提供して参りたいと思います。



伊東一彦先生をお迎えしての短歌会  
(後列 右から3人目)

日南市鉄肥にて



西都原公園にて



テーブルゲーム



日南市鉄肥にて



余興



外食



クリスマス会



# 養護老人ホーム 長寿園

養護老人ホーム長寿園

施設長 関野 耕二

長寿園が移転改築により、浮田地域での事業を開始して、2年が経過しました。

4月からは、70名の入所者の皆さんと職員が共に協力しながら3年目の施設生活に取り組んでいるところです。

移転前の旧長寿園から一変して居室の個室化や施設全体のバリアフリー化により、入所者の皆さんの生活環境も格段に良くなり、日々の施設生活にもゆとりが感じられます。

現在では、入所者のほぼ半数が新生長寿園となつてからの入所となっています。

隣接地に建設中だった辰元グループの介護老人保健施設「このはな」も完成しました。周辺がさらににぎやかになる事と思います。

私達長寿園も「明るく楽しい施設生活」の基本方針の下に、職員・入所者相協力して、施設生活作りにまい進していきます。



リハビリ訓練



青島ヘッドライブ



風船バレー



麻雀愛好会

# グループホーム たちばな



西都原のコスモスをバックに

グループホームたちばなは、辰元グループの広大な敷地の一面にあり、目の前には田んぼが広がり、豊かな自然に囲まれています。季節ごとの行事やレクリエーション、また園芸や手芸を通して、楽しくゆったりとした毎日を過ごしていただいています。



かわいらしい子供たちの踊りに拍手喝采



みんなで少しずつ作品を完成させていきます



願い事は何でしょう？



飯田地区の三世交代会合唱しました



綾町の馬事公苑にて

敷地内の畑で季節の作物を育てています

# きんかん小規模多機能ホーム



お花見



流し  
そうめん



きんかん小規模多機能ホームでは、利用者の皆様が毎日楽しく過ごすことが出来るように、毎日レクリエーションを企画・実行しています。春には花見、夏にはそうめん流し、秋には干し柿作り、冬には初詣など四季折々を利用者の皆様にも感じて頂けるよう、また、1年健康に過ごせたことを感じて頂きたい思いも込めて、毎年の行事や日々のレクリエーションに取り組んでいます。

介護の面においては、自宅でどのように暮らしていくか、なるべく長く自宅で、家族と過ごせるかを考えて、その時の最善のサービスを提供していくことを心掛けています。

住み慣れた地域で過ごす時間を楽しく、おもしろく、笑顔で過ごせることをモットーにしています。

十五夜



もちつき



獅子舞  
浮田神社





# 高岡デイサービスセンター

## 「指定管理2年目に向けて」



高岡デイサービスセンター  
管理者 神田 慎一

社会福祉法人信愛会が平成26年4月から高岡デイサービスセンター及び老人福祉館「百寿荘」の指定管理を受託して2年目を迎えました。デイサービスにおいては、利用契約者数も現在44名となり、去年の4月と比較しても、18名増えている状況です。

利用者数が順調に増加している要因の一つは、平成27年度からの通所介護に対しての介護報酬改定があげられます。高岡圏域におきましても、事業運営の厳しい環境の中、デイサービス事業所が数か所休止して、当センターに移られた利用者もいます。

しかし、私は、最大の要因は、長年培われてきた社協デイサービス時代からの伝統、すなわち地域の方々に愛され、また、デイサービスに勤務する職員と利用者及び家族との深い信頼関係が構築できていたからこそだと思っています。

また、老人福祉館「百寿荘」においては、当センターの岩切所長を中心に、9月には敬老会、3月には桜祭りを企画して、百寿荘利用者と地域の高齢者を招いて開催しました。大広間に80名以上も集まり、大盛況だったことは言うまでもありません。

さて、私自身は、平成8年に辰元グループに入職してから20年目の節目の年となり、当センターも信愛会として2年目を迎え、昨年同様、まずは目の前の今日一日を大切に、介護サービスを提供している職員一人一人の仕事に対する真摯な姿勢が継続してできるように見守っていききたいと思います。

## 月間行事

ドライブ(お散歩)・外食の日・お誕生会・慰問(舞踊・民謡)等々。  
和気あいあいと、いつも笑いの絶えない利用者の皆さんです



外食の日



ドライブ  
お散歩



お誕生会



お買い物



運動会  
(10月)



夏祭り  
(8月)



こい釣り  
(5月)

## 年間行事

季節に応じた、イベントを企画しております。  
利用者の皆さん童心に帰って、様々な行事を楽しまれています

## 百寿荘

4月の「桜まつり」、9月の「敬老祝賀会」と地域の方を招いて、交流会を図っています



# しんあい歌壇

毎月一回、ケアハウスシャトルで行われている短歌会で発表された短歌の中から、いくつかを紹介します。作者は、シャトル、裕生園及び宮崎しんあいの入居者の方々です。  
(氏名五十音順)



薄墨の雲をななめに鳥飛びて

夜明けの窓に葉桜の寒

老人は自由切り売り不自由を

買ってあの世へ独り旅立つ

遊ぶ子の頭上ゆるやかに鯉泳ぐ

鯉のぼり風に吹かれて心和みし

秋の月窓を開ければそつと入り

バッタが飛んで友を呼びおり

独り住み心の悩みを解きたいと

短歌をつくり一人ほほえむ

笹の葉に短冊飾り浴衣着る

星を眺めて夜夕涼み

梅雨晴れは心晴れやか遠近えんきんの

森の木の葉は輝きており

年賀状出す人来る数年々に

少なくともなりゆく八十路すぎれば

年重ね忘れることの多くても

未知の世界に散歩してみたい

安藤 武

安藤 武

鈴木喜美子

田口利昭

田口利昭

二宮裕子

二宮裕子

花田暢子

花田暢子

初日の出ホームの窓に輝いて

我が人生残り日照らす

健やかに笑顔をそえて大空に

カーネーションを抱く俵せ

刻々と目には見えねど地球は廻る

朝昼晩と今日も暮れ行く

懸命に鳴いてる蝉の声きけば

明日の命を知るや知らずや

あの星に父母のいたるや夜半の空

仰ぎみたりて安堵にねむる

生を受け怒り哀しみ悔いあれど

来る日新ひまわり向日葵の言う

紅白がすんでさつそくおそば食べ

除夜の鐘聞き新年迎える

面会に来ると娘の電話あり

指折りかぞへ待つ間楽しむ

旅立ちに親子ドキドキ花が咲く

老いた夫婦は心晴れやか

我もまた忘れがたき富士の山

遠き眺めは日本一かな

松浦 エイ

松浦 エイ

松本 マサ

松本 マサ

森田 琢恵

森田 琢恵

吉川 ウメ

吉川 ウメ

米澤 義光

米澤 義光

## 編集後記

二〇一一年三月の東日本大震災からもう四年以上が経ちました。記憶が遠ざかるにつれて当初の危機感も薄れて来ていますが、あの巨大地震の影響でようやく、日本各地の火山が次々に活動を活性化させています。今まで眠っていた多くの火山を東日本の巨大地震が揺り起こしたような感じですが、そして、私たちもあの時心に抱いた危機感を眠らせてはいけないと、火山噴火のニュースを見るたびに思っています。



吉川ウメさんの二面会に来ると娘の「の歌が平成26年度「心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会」で佳作に入賞しました。この短歌大会の選者である伊藤一彦先生のラジオ番組でも吉川ウメさんのこの歌が紹介されました。私たちみんなにとって大変喜ばしいことで、更なる精進へと励みになりますね。

『しんあい』のバックナンバーは信愛会のホームページで見ることができます。 <http://www.sin-ai-kai.jp>

『ひこばえ』第一一七号、第一一八号のなかから『しんあい』編集部が選びました。